

令和5年度ヘルスネットの集い並びに第55回健康文化研究懇談会

長年に亘り、老化と寿命のメカニズムの解明に関する研究に取り組んでこられた順天堂大学大学院医学研究科循環器内科 南野徹先生に、「老化は制御可能か」をテーマとして、老化細胞を標的とした抗老化治療の可能性などについてご講演いただきます。ぜひご参加ください。

日時

2023年 **11月27日(月)**

14:00～16:00 (受付13:30～)

会場

浜離宮朝日ホール・小ホール

東京都中央区築地5-3-2

定員

100名 ※定員になり次第締め切らせていただきます。

参加費

無料

申込方法

当会のホームページ「お知らせ・イベント」に掲載の「令和5年度ヘルスネットの集い第55回健康文化研究懇談会のご案内」をクリックしてお申込みください。
https://www.healthnet.or.jp/e55_form.html

締切

2023年11月13日(月)

参加票

開催前に「参加票」をメールでお送りします。
開催当日、受付にてご提示ください。



申込フォーム
二次元コード

プログラム

14:00

～

令和5年度ヘルスネットの集い

ご挨拶

佐藤 元彦／一般財団法人日本健康文化振興会 理事長

事業概要

五寶 誠一／一般財団法人日本健康文化振興会 常務理事

ヘルスネット事業説明

金子 康則／一般財団法人日本健康文化振興会 企画渉外部部長

14:45

～

16:00

第55回健康文化研究懇談会

講演テーマ **「老化は制御可能か」**
-血管の老化を防ぐには?-

講師 **順天堂大学大学院医学研究科
循環器内科 教授
南野 徹**



1989年千葉大学医学部卒業。
東京大学医学部にて医学博士取得。
ハーバード大学医学部研究員などを経て、2012年より新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科教授、2020年より順天堂大学大学院医学研究科循環器内科教授。専門は循環器内科学。老化や心血管再生を研究領域としNatureなどHigh Impact Journalにその成果を発表。日本循環器学会賞（佐藤賞）やベルツ賞、日本医師会研究奨励賞などを受賞。内科・循環器系の国内外の学会を始め、老化関連の国内外の学会の理事や委員、役員として活動。多分野の基礎・臨床医学研究者をメンバーとする研究会も複数主宰。

－会場へご参加いただく皆さまへ－

- ・当日は、体調をご確認の上ご参加ください。体調がすぐれない方（発熱等）は、ご参加をお控えくださいますようお願いいたします。
- ・消毒液をご用意しておりますので、入室前に手指の消毒をお願いいたします。
- ・座席は間隔を空けてお座りいただきます。
- ・講演会の合間に換気をいたします。
- ・感染症の拡大状況により、マスク着用など感染対策をお願いすることがございます。

－会場 アクセス－

浜離宮朝日ホール・小ホール

住所：〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞東京本社・新館2階

電車

「築地市場駅」都営大江戸線（A2出口）すぐ

「築地駅」東京メトロ日比谷線（1、2番出口）より徒歩約8分

「東銀座駅」東京メトロ日比谷線／都営浅草線（6番出口）より徒歩約8分

「汐留駅」都営大江戸線（新橋駅方面改札口）／新交通ゆりかもめ（改札口）より徒歩約10分

「新橋駅」JR（汐留口）／東京メトロ銀座線（1、2番出口）／都営浅草線（改札口）より徒歩約15分

－第55回健康文化研究懇談会－

講演テーマ

老化は制御可能か －血管の老化を防ぐには？－

講師

南野 徹

順天堂大学大学院医学研究科 循環器内科 教授

1989年千葉大学医学部卒業。

臨床研修後、東京大学医学部に於て医学博士取得。

ハーバード大学医学部研究員などを経て、2012年より新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科教授、2020年より順天堂大学大学院医学研究科循環器内科教授。専門は循環器内科学（動脈硬化や心不全）。

老化や心血管再生を研究領域としてもち、Nature、Nature Medicine、Nature Genetics、Nat Cell Biology、Cell、Cell Metabolism、Lancetなどを含むHigh Impact Journalにその成果を発表。それらの成果を基盤として、日本循環器学会賞（佐藤賞）やバルツ賞、日本医師会研究奨励賞などを受賞。

内科・循環器系の国内外の学会や、老化関連の国内外の学会の理事や委員、役員として活動。多分野の基礎・臨床医学研究者をメンバーとする研究会も複数主宰。

文部科学省学術調査官や日本学術振興会学術システム研究センター研究員、AMED-CREST/PRIMEの領域アドバイザー、AMEDプログラムオフィサーなども兼任することで、日本の科学研究システムにも貢献。

講演内容

加齢に伴って生活習慣病の罹患率が増加し、その結果、虚血性心疾患や脳卒中の発症の基盤病態となっています。健康寿命を短縮しているこれらの疾患は、多くの高齢者において共通に認められることから、老化の形質の一部として捉えることができます。すなわち、これらの疾患の究極的な治療のターゲットは、寿命を調節する仕組みそのものかもしれません。このような現状で、老化・寿命のメカニズムの解明に関する研究は、最近20年間で飛躍的な進歩を遂げています。老化のメカニズムについては諸説ありますが、そのひとつが「細胞老化仮説」です。加齢や過食などのメタボリックストレスによって、様々な組織に老化細胞が蓄積し、それらが分泌する炎症分子による組織障害や組織再生能力の低下によって、臓器老化・個体老化が進むというものです。実際我々はこれまでに、血管や心臓、内臓脂肪組織に老化細胞が蓄積することで、それぞれ動脈硬化や心不全、糖尿病の発症・進展に関与することを明らかにしてきました。さらに最近、老化細胞除去（Senolysis）によって、病的老化形質が改善することが示されています。そこで今回は、老化細胞を標的とした抗老化治療（Seno-antigen, Seno-metabolites, SASP, Seno-nergy）の可能性について議論します。